

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和2年 2月 12日

三田市議会議長 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	印
		議員名	
派遣者氏名	厚地弘行 田中一良 北本節代 佐貫尚子 西上俊彦 中田 哲		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	千葉県大網白里市 (デジタル博物館) 銚子市 (銚子スポーツタウン)		
日 時	令和 2年 1月 28日 (火) ~ 2年 1月 29日 (水)		
視察先対応者	大網白里市 岡田憲二文教福祉常任委員会委員長 鶴岡議会事務局主任書記 斉藤教育委員会生涯学習課長 銚子市 岩井文夫議長 原議会事務局長 観光商工課金島 (株)銚子スポーツタウン取締役支配人滝田靖		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可			
別 紙			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名（無会派は記入不要）、議員名を記入の上、押印してください。

調査日時	令和2年1月28日(火) 14:00~15:30
視察先	千葉県大網白里市
調査事項	デジタル博物館 文化財・民芸品・考古資料などのWEB展示
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>● 調査結果概要</p> <p>デジタル博物館について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業予算2300万円 9割 文化振興財団助成金活用 ランニングコスト年間30万円 ・設立経緯 ⇒ 博物館・史料館・美術館などの施設なし、文化財担当職員2名のみ 施設、財政、人員の限界 ⇒ 閉塞感⇒デジタルミュージアムの潮流⇒先進事例になるが予算にゆとりなし⇒助成金研究・発見⇒<u>文化資源たくさんあるが施設がない⇒収集・保存・調査研究論文・展示発信が必要。⇒全国でも希少なデジタル博物館で弱みを強みに!</u> ・文化資源の発掘・整理⇒神社・文化センター保存品、絵馬、伊ワシ文化、中世の城郭、考古資料、郷土芸能、古文書伝統・民話、方言迷信、祭礼、古い写真、古美術品、陶芸作品、古地図等 ⇒ 市史の編集も必要。 ・複数のテーマ ふるさと納税との連携 観光資源 教育連携 多文化共生 地方創成の軸事業に。 ・展示物をウェブによる公開 解説文付き高精度画像 <u>拡大縮小 全方位回転可能(3D画像) 高精度画像で材質の質感、使用感まで楽しめる。</u> ウォーキングマップとリンクさせ、イメージを統合。 市史を入力し キーワード検索可能。 <u>⇒専門的なキーワードや関係性が即座に調べられる。</u> 文化財 伝統文化 踊り イベント映像 民謡 民話 などを動画により保存公開 ⇒閲覧機会増え文化の浸透が進む。⇒後継者不足解消へ。 ・効果 閲覧件数 H29 21,476件 ⇒ H30 22,001件 ⇒ H31 19,876件 <u>市HP 閲覧件数と同等の高水準を安定的にキープ。</u> 教育波及効果 教育現場でたびたび利用される。⇒デジタル教育と市史歴史文化教育との相互効果を発揮。 ・課題 <ol style="list-style-type: none"> ① 恒常的財源ランニングコスト年間30万円、+拡充コスト 各種助成金の研究。 ② 新規展示物の開発と棄損展示物の復元作業。 ③ 地図の解析 大正時代の地図と現在の地図との重ねる⇒過去の災害履歴情報などとリンクさせて災害対策利用。 ④ 音声解説機能の付加。 ⑤ 撮影手法などコストパフォーマンスの検討。 ⑥ 市内企業の中から、撮影・編集・維持管理・開発を担当できる業者を開拓育成。 	

●質 疑

Q 展示品すべて3D画像にできるのか。

⇒撮影予算に限りがある。特に展示価値の高い展示品を選び3D化している。

Q 個人所有物は個人の責任負担で保管・修復しているのか。

⇒地域、寺院や、市が保管しているものが主。民間への管理修繕補助などの制度は今後の課題。

Q ナイトミュージアムとはなにか。

⇒会館時間の延長したイベント 職員や社会人向けに開催。

Q 学校教育現場にどれくらい使われているか。

⇒追跡調査はしていないが、社会科副読本として多数利用されている。

Q 開発の2年間の中で職員のかかわり方は

文化財全般見ている中であったが、重要施策として位置付けており、3分の1程度の時間・労力を割いたのではないか。

Q 民間へ委託は地元の業者か

⇒千葉市の業者をプロポーザルにより決定。(参加1社のみ) 地元事業者開拓は今後の課題。

Q 高齢者の利用は。

⇒タイトルを整理して分かりやすさを追求しているが、やはり、若い人の利用が多い、高齢者向けに、一定期間場所を設け特別企画展を開催している。

Q コストの単価、契約方法は？3Dより動画のほうが安価でおさまるのではないか。

⇒一日あたりのカメラマンの人件費という形で契約している。3D撮影時間かかるので、今後は動画、四方向等、作業効率を再検討する。

Q コアな文化ファンからのデジタル化への否定的な意見などはなかったか。

⇒多少のクレームも想定していたがネガティブな反応は現時点でほとんどない。

【所 見】

★大網白里デジタル博物館事業について

博物館や資料館、美術館などの文化施設を有してないため、いつでも、どこでも、無料で文化資源に親しむことができる施設としてインターネット上での公開を企画された。

マウスやタブレットのドラッグで360°の回転、拡大、縮小ができる。

学校教育現場での対応では、子どもたちも大変興味を持っており、子ども向けの解説も丁寧にされ、社会科副読本として多数利用されている。デジタル教育と市史、歴史文化教育との相互効果を発揮している。

また高齢者への対応については、やはり若い人のパソコンでの利用が多く、高齢者向けには、三年に一度、一定期間場所を設け、特別企画展を開催していると説明。

三田市の小・中学校において、時代に即応した教育として埋もれた三田の歴史や伝統・文化郷土芸能・民話等に活用することにより閲覧機会が増えることにより、文化の浸透が進み、延いては、後継者不足の解消につながるのではないかと感じた。

視察先：千葉県銚子市

視察目的：銚子スポーツタウンについて

視察概要：銚子市役所において岩井市議会議長及び原事務局長に面談

その後銚子スポーツタウンに移動し説明を受けた

施設の目的はスポーツ合宿誘致を核に観光産業を活性化・ブランディングさせることであり、交流人口の増加により移住や定住促進に結びつける。

銚子市では銚子商業のエースであり元プロ野球のロッテで活躍した木樽正明氏がスポーツアドバイザーとして就任している。木樽氏は指導者としての資格を取得後、少年やシニアへの指導をすると共に野球のまち銚子の復活を目指した。スポーツによる地域活性化を掲げるNPO法人の小倉理事長と意気投合し構想を市へ提案した。

市の強みである豊富な観光資源、冬暖かく夏は涼しい気候、東京や成田から近い、特色あるスポーツ大会が行われていることを活かしスポーツによるまちづくりを目指すこととなった。2校あった高校のうち1校が廃校したことにより、廃校の市立銚子西高校をスポーツ施設として活用することができないか調査した。国の補助事業を調査した。NPOに対する市の考え方は、市が施設整備することは困難、施設改修はNPOが実施すること、但し国等の補助金は積極的に活用する、市の支援策としては土地や建物の無償貸与を検討する、こととした。2016年銚子スポーツタウン協議会の議論を踏まえ市として事業を推進することを決定した。株式会社銚子スポーツタウンの資本金500万円は銚子市250万円とNPO役員らが出資する。

2017年2月地方創生拠点整備交付金が決定し、1億2,000万円で体育館を改修した。クラウドファンディングにより11,749,000円の寄付を達成した。施設の運営は協議会で行う。協議会のメンバー構成は銚子市、NPO、商工会議所、観光協会、体育協会銀行などが入る。2018年4月本格的にオープンした。2018年度の実績は8,492人の宿泊数と20人を超える雇用につながった。

施設整備内容は添付資料のとおり

◆現地視察 観光商工課金島さんより説明、滝田支配人より現地説明

食堂・・・150名が同時に利用可能 配膳はセルフサービス 追加料金でお変わり自由
コインランドリー・・・コイン式洗濯機の大型機を10台設置。 コイン式乾燥機があり
利用者が洗濯物干しに追われることなく好評である。

浴場・トイレ・・・大中2つの浴場は適当なサイズと思われる

野球場・・・芝生の維持管理については委託せず自分たちで行っている。

取り崩した校舎の跡地に更に野球場1面の整備を進めている。

体育館・・ピッチイング練習ができる屋内スペースがある。ダンススペースには壁面をガラス面に改修されている。鉄棒もあり少年少女の体操の練習ができる。2階のアリーナは広くバスケットコート2面が十分に使える。千葉ジェッツのジュニアチームがよく使う。

宿泊棟・・以前は部室であった建物を改修した。最大8人だが通常6人で使う和室が19部屋ある。中は布団のみ置いてある。洋室よりも和室のほうがスペース確保ができるとのこと。

- ◆課題
- ・現金は残るが決算ベースでは赤字である。減価償却費が大きい。
 - ・平日の利用を増やしていく必要がある。高齢者のグランドゴルフを大会で試してみたが、高齢者は普段から無料でグランドゴルフをしているため有料での施設利用は難しい。
 - ・施設の認知度を高めていく必要性がある。
 - ・隣接する神栖市はサッカーの聖地としてよく使われるため野球利用を中心に進めてきたが、神栖市のサッカーイベントで入りきれないことがあったので、今後サッカー利用も進めていく。

【所 見】

★銚子スポーツタウンについて

市立銚子高校との統合により市立銚子西高校が廃校となり、元プロ野球選手の木樽正明氏が銚子市行政アドバイザーへ就任され、廃校を活用したスポーツタウン構想を市へ提案。

廃校の跡地をスポーツ施設として活用することとなった。

市の支援策として土地や建物の無償貸与と国や県の支援制度を積極的に活用するなど、様々な交付金事業の活用と寄付金、金融機関の融資によりオープンすることとなった。

1年目は、開業前の営業により一定の成果は出たが、引き続き認知度、PR、営業が大きな課題であると説明。

三田市においても、スポーツアドバイザーやその他3名のアドバイザーを設置されているが今一つ私たちには、形として見えてこない。職員の提案制度のアドバイスや市の取り組みに対するアドバイス、提言は元より、この方々が自ら三田の魅力を内外に発信する企画、運営に携ることにより、銚子スポーツタウンのような発展につながっていくのではないかと感じた。